



38 天海大僧正坐像（長楽寺所蔵）

木造寄木造・像高 58.9 cm

制作年代：近世初期カ

天海は諡号しごうを慈眼大師じげんだいしといい、会津出身の天台宗の僧で、徳川家康の知遇を受け、幕府内外の政務にも参画していた僧侶です。天海は長楽寺を臨済宗から天台宗に改宗すると、境内を整備し、伽藍がらんを修復して、幕府庇護のもと末寺 700 寺有余の大寺院に成長させました。家康の神号をめぐって京都南禅寺金地院の以心いしん崇伝こんちいんとの論争を制し「東照大権現」号に決定させた人物としても知られています。以心崇伝と並び初期家康政権の宗教政策を担った傑僧けっそうでした。

画像提供：太田市教育委員会